

札幌 市民防災

第30号

令和6年3月31日
札幌市民防災団体連合会
発行責任者 田畑 隆二

令和5年度 札幌市防災表彰式・ 札幌市自主防災講演会

札幌市防災表彰式

日時：令和6年1月18日（木）

場所：ホテルモントレエーデルホフ札幌13階 ベルヴェデーレ



防災表彰を受賞されました皆様おめでとうございます。

表彰は自主的な防災活動を熱心に取り組んでおります団体をたたえる表彰団体です。

町内会などの各団体は心肺蘇生や消火講習、安否確認、各戸に最低三日分の食料等の備蓄の呼びかけ等の活動をしております。

秋元市長より「大災害時には地域の皆さんの共助が重要」とのお願いしたいとの言葉がありました。

式では熊本市の原口誠二危機管理監が講演。2016年の熊本自身の事例を発生されました。特に職員も被災し、公助で知恵を出し合い、備えを大切にとお話しされました。



「日頃の備え」・「みんなで助け合える避難所づくり」

札幌市民防災団体連合会 会長 田畑 隆二

令和6年度の始まりは、能登半島地震の発生で多くの方々が被災されました。被災されました皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

東日本大震災・熊本地震・北海道胆振東部地震等、今回の能登半島地震による一瞬に日常生活を奪われる地震災害の怖さを改めて知られました。

いつ起こるか分からない災害に対し、日頃からの備えの大切さを実感しました。又、被災した多くの皆さんの避難場所の運営についても、地域の皆さんと「みんなで助け合える避難所づくり」の避難所訓練やマニュアル作成が重要と思います。避難所で、一人ひとりが主体的に動ける様に「連携と協働」の大切さが必要と思います。当会員の皆様と共に、札幌市危機管理局・保健福祉部が主催する各区での小学校で実施（毎年）されている避難所運営訓練には、地域全体で積極的に参加し、災害防災力の向上と日頃の備えの大切さを広めて行きたいと思います。

これからも、会員の皆様の地域防災力の向上の為、防災情報の発信をして参ります。



自主防災の意義と自主防災組織に求められる活動について

札幌市危機管理局危機管理部 防災推進課長 三 好 俊 也

日本は自然災害の多い国であり、災害から住民の命と生活を守るためには、自分たちの命は自分たちで守るという自覚と責任を持ち、自主的に防災活動に取り組むことが必要です。これが「自主防災」の考え方です。

その中心的な役割を担うのが「自主防災組織」で、この組織は、地域住民が町内会や自治会などの地域組織を母体として、自主的に結成する防災活動の任意団体です。

主な活動としては、日常時においては、防災知識の普及や啓発、地域の災害危険箇所の把握、防災訓練や防災資機材の整備、避難行動要支援者※の対策などを行い、災害に備えます。また、災害発生時には、情報の収集や伝達、出火防止や初期消火、救出や救護、避難や避難所運営、給食や給水などを行い、被害の防止や軽減に努めます。

自主防災組織は、地域をよく知っているからこそ、きめ細やかな対応ができるというメリットがあります。その活動においては、自分たちの地域の特性やニーズに応じて、柔軟に工夫することも可能です。また、顔の見える関係を通して、支えあう絆を育むことができるという利点もあります。

しかし、自主防災組織にこうした機能を持たせるためには、地域の住民一人ひとりが組織の結成や運営、活動の計画や実施について、積極的に関わることが必要です。また、他の自主防災組織や消防団、消防、自治体などとも連携し、相互に協力することが求められます。

こうした取り組みにより、災害に強い地域社会をつくるとともに、自分たちの地域だけでなく、周辺の地域や社会全体の防災力の向上にもつながります。

引き続き、貴連合会のみなさまには、自主防災の意義にご理解いただくとともに、自主防災組織の活動にご協力いただきますようお願いいたします。

※避難行動要支援者とは

自ら避難することが困難な要配慮者のうち、特に支援を要する方のこと。

能登半島地震での被災地支援について

札幌市危機管理局

今年1月1日に発生した能登半島地震は、発生した時期や規模において日本の歴史に残る大災害となりました。地震の揺れで倒れた多くの家屋、土砂で埋まった道路、津波で流された車や家財道具など、奥能登では、あらゆるものが破壊されました。また、少し離れた金沢市周辺部や能登半島の左川の海岸近くでも、多くの液状化が発生しました。

札幌市では、この地震で被災した地域を支援するため、発災後、直ちに職員を派遣しました。

大きくは二つのルートにより支援を行いました。一つは、水道事業などの同業者ごとの全国組織を通じて派遣を行うものです。水道局からは応急給水のため、下水道河川局からは下水道調査のため、病院局からはDMAT（ディーマット）※などが県内被災地のさまざまな場所に派遣されました。

もう一つは、国の調整に基づいて、被災自治体と一対一の関係で行う対口（たいこう）支援という方法で、石川県内の宝達志水町へ職員を派遣しました。

この派遣では、危機管理局の職員が先遣隊として現地に赴き、宝達志水町から必要な要望を聞き取った上で、まずは建物被害調査や罹災証明発行の業務、高齢者の個別訪問支援などの業務が必要であることを把握しました。

この報告を受けた札幌市にいる危機管理局の職員が、市役所内で調整を行った上で、財政局から建物被害調査等のために固定資産税担当職員を、保健福祉局から高齢者宅への訪問を行うための保健師を数名直ちに派遣し、その後も、宝達志水町からの要請に応じていろいろな分野での派遣を行っています。

宝達志水町は、輪島市や珠洲市と異なり、津波や火災の被害はなく、建物の倒壊なども少なかったため、大きな被害はありませんでした。しかしながら、建物被害や液状化はいたるところで発生し、生活の基盤を失った被災者の方々は、心に深い傷を負うなかで、今後、住宅などの生活再建に取り組む段階へと移行していくこととなります。

このため、札幌市の支援も、復旧・復興を見据えた中長期支援へ切り替えてまいります。

この能登半島地震での支援では、胆振東部地震での経験が生かされた部分も多くありました。災害は起こらないことが一番ですが、必ずどこかの地では生じてしまいます。

札幌市としては、今回の派遣で得られた経験や過去に学んだことを含め、札幌での災害対応に活かしていくとともに、他の地域で発生した場合にも積極的に支援することで、その対応力の向上につなげていければと考えています。

一方、大規模災害の前では、行政の力だけでは限界があることも事実です。市民の皆様方においては改めてのお願いとなりますが、自助、共助による地域の防災力を引き続き高めていただきますようお願いいたします。

※DMAT（ディーマット）とは

災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）の略称で、災害発生直後から活動できる機動性と専門性を持った医療チームです。

医師、看護師、業務調整員で構成され、災害現場や被災地の病院で救急医療や病院支援、広域医療搬送などを行います。



受賞を契機に今後とも防災活動に力

北区鉄西第12町内会 会長 晶 眞佐子

鉄西第12町内会は、コロナ禍においても単位町内会として継続して防災活動を行っております。これまで積極的に地域の企業と協定を結び災害時の連携を図り、また平成26年の「防災マップ」作成後も、定期的に改訂し最新の情報となるよう努めております。

令和5年は、近年と課題となっております「水害対策」の一環として、希望する集合住宅及び一戸建住宅に対して土嚢を配布するなどして、地域・会員に対する防災活動の普及啓発を図り、もって防災意識の向上に努めております。また、地元北九条小学校で行われて北区総合防災訓練に積極的に参加いたしました。受賞を契機として、今後とも防災活動に力を注いでまいります。



札幌市防災表彰を受賞して

豊平区第18分区町内会 会長 千 葉 玉 枝

町内会創立75周年記念に、札幌市防災表彰をいただき感謝申し上げます。

当町内会は、昭和22年に豊平区地区では一番早く町内会を創立。現在は、地下鉄・学校・病院・スーパー等の利便性に恵まれているため、マンションも増え、約600強の世帯が居住しており、町内会は6班体制で活動をしています。昭和58年には防犯功労団体市長表彰を受章。平成18年には、自主防災会を組織し、連絡網を活用して毎年、町内会内のみすす公園にて美園消防所と豊平消防団の協力を得て、役員はヘルメットを着用し、子供から大人まで防災訓練に参加し、コミュニケーションを図っています。周年記念には、懐中電灯に次いで、今回は、防災用携帯ラジオを会員に配布しました。

今後さらに、安全・安心な住みやすい町内会にするために、福祉部と連携し、防災活動を実施してくれることを期待しています。



防災訓練 みすす公園



誰一人取り残さない防災を目指して

特定非営利活動法人防災したっけ 代表 水 口 綾 香

防災したっけは、防災専門NPOとして研修やイベント等を実施することで、誰一人取り残さない防災を推進しています。

令和5年8月6日(日)開催の「白石おやこ防災フェスタ」への参加をはじめ、子ども向け防災イベント「防災クエスrouんちモンスターをつかまえろ!」では子育て世代を対象に、大切な命を守るために重要な家具の転倒対策や洪水ハザードマップと避難行動や、気軽に取り組める100円防災の提案など、家族そろって防災を学ぶ体験ブースを実施しました。



また、障がい当事者とともに「防災まなびカフェまもりタイズ」を企画運営しています。本年度は企業と協力しながら3地域（中央区、白石区、西区）で全9回実施し、障がい者や支援者と避難や備蓄について学び、地域とのつながりを進めました。

令和6年2月4日には行政と地域と連携しながら元町連合町内会主催の厳冬期避難所体験の企画等を実施いたしました。

今後も地区の防災に貢献できるよう尽力して参ります。



地域防災支援のとりくみ

東月寒地区町内会連合会 会長 有 田 京 史

東月寒地区では、危機管理局のご指導の元に「地区防災計画モデル地区」として、その策定に取り組んで参りました。考えかたとしては、①地区を単位とした防災。②地区内の社会関係資源の活用。③防災資源の平時の活用。具体的には、①地区内 4 避難所をワンセットとして考える。②日頃から会社も含めた町内会・人の連携・顔の見える関係づくりを進める。③災害への備えを平時にも活用して無駄や無理のない防災活動を目指す。

特に災害時要配慮者支援の個人情報を見守りにも活用する手段を行政と共に考える。

以上を骨子としたいのですが、まだまだ絵に書いた餅の段階で、コロナ禍の 3 年間の中断もありましたが地道に進めて行きたいと思います。



令和 5 年度 札幌市防災表彰受賞団体

中央区	円山町内会連合会防災・防火部
中央区	山鼻サントウン防災・防犯協議会
北 区	鉄西第12町内会
東 区	栄東連合町内会
白石区	防災したっけ
厚別区	シティアベニュー防災協議会
豊平区	豊平第18分区町内会
清田区	清田有楽町内会
南 区	南沢第一町内会
西 区	ひまわり町内会
手稲区	西宮の沢連合町内会



編 集 後 記

新年早々能登半島地震が発生し、多くの犠牲になりました方々に心よりお見舞申し上げます。今年は桜の花便りも例年にくらべ遅いようです。

年度も変わり各行事対応に役員の皆様も大変とは存じますが、会員の方々がよろこんで参加できる行事、又いつおこるか分からない災害対応など安全で安心出来る生活を皆さんで取り組んでいきましょう。

健康が第一です。自分自身元気で桜のお花見等楽しみに開花を待ちましょう。交通事故には十分気をつけましょう。

副会長 広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583 番

印刷所 北晃社 斎加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011 (631) 1271